



松通落葉
壹

1卷5
401
2



ごまゆゑなり日本書紀垂仁天皇み巻り令_レ祠官ト兵器
爲神幣吉之故弓矢及横刀納諸神之社云蓋兵器祭
神祇始興於是時也と見え天の下いつまれ神の社も兵
器りて神を祭るハ此御代よりいふ事なりことより
されども崇神天皇み御代ふ神乃よりいふ事なりて盾矛りて
墨坂神大坂神とよけをたしとると思ひしは御國に
神ハ兵器とるのみならず故つとさしは延喜式の祝
詞よりあつての神み社の祭ハ神寶とてハ弓太刀楯戈など
なり

國政ハ神事とひひとせしむ

御國ハひひと神といふ事よりいふ事よりいふ事
國政も神事といひひとせしむる職員令ハ國守ハ掌る事とす
いふ事よりいふ事守一人掌祠社戸口簿帳字養百姓云事
見え續日本後紀九の卷承和七年にいふ事勅敬神如在
視民如子國宰能事古今通規是以屢施條章觀彼治道
と見えいふ事ハ神事といふ事よりいふ事
いかり古事記中み巻りハ汝命爲上治天下僕者扶汝命
爲忌人而仕奉也とあり天下の政をたしむるハあつて中
人よりいふ御神事とすいふ事よりいふ事ハあつて中
いふ事よりいふ事ハあつて中いふ事よりいふ事ハあつて中

み又さしともみれどしんとあつてあつて古書ふみん
事さし山城國みもはやりたのふもとよまんぞ正し
國乃名あつたあやまりも久しといひれは今もいひ
あつて先づた事なりし

野

山みふしふ草れ生るととつと打つて野といふ
古今集み哥よ野べらう家居しサれむういひの鳴り
あられくさくさ山近くも里もも鶯の志むく來
てあつてのりれむりさつと山のすも野ともつハ田ふ
草れ生ると所ハ山みふしとぬぐもむし野のさし野といふ

あれむしとまもあつてやうもさくさくしとさつと
今世の人ハ田畑とも野ともあつて哥とむ人もあつて
らしりらん和名抄よむる総あつて園菜ともいふと野
菜ともいふも思ふべし

すさ

とれといつても生さうと草といふ事あり和名抄も草
聚生曰薄といつ又日本書紀神功皇后れ巻に幡菰^{ハタスキホニイモシ}出吾
也考徳天皇れ巻よ三河大伴直^{スギ}蘆といつて菰蘆のさつとと
れにすさともいふもあつて生さゆもよとて乎花ハ
さうあつたあつて生されど中むしとつハあつて此草乃

亦お名のごくくかきしるちまづー

雁が松

雁が松ハかりが音なる事古今集お哥よささ中と夜ハふひめりし
かりが松のささゆゆる小月ひら見ゆとつるあきさき音のこ
ゆきつとさなる詞なり又同集お哥小霞といふ雁が松ハとつる
たづ雁といつるやうひいと末よ今を鳴さるとはれはらね雁が
音なるあきさきりり万葉集の哥小雁カリガキ雁泣雁音カリガキとささ
る新古今集の定家卿お哥小霜ささ小空ふさとれ雁が松の
かきつむらよさささめぞふるとさみさみハは雁乃ちささ
心えたりつるささるはらむあやまりけり

人とつる女おあつる

ふつと哥集お詞がたよ人をささふとつるハみびつとささ
人のさしゆとら乃あとかうさささ小人よとつる古今集
あよ坂を人をわれりる時よささあよ坂の關ハはれりおさ
らむおびよささ君とさめよ又お山おほらうめて人とささ
とささあさねと山木ささ鳴てほらさは君がされとさ
むづらなとつるを見ささし君がさめよ君がされとつるこれ
人乃つるさゆらささ

女おあつるとつるさささささささささささささささ
さささささささささささささささささささささささ
さささささささささささささささささささささささ

定家卿のたはるる伊勢物語

甲陽軍鑑ふ今川家の秘藏に仕る定家此伊勢物語と酒より
記といふ書より逍遙院乃船よりしるしとみよし
卿の伊勢物語の御所よりなる事とせしめて
やけぬとて定家卿のたはるる事とみよし
の世よる本よりてはるる事とみよし
みよし

為家卿のたはるる百人一首の本

文曆のころ定家此中納言のたはるる嵯峨中院障子乃色

紙形は百首は哥と為家卿のたはるる事とみよし
を江戸よる人ありり屋代弘賢此をたはるる
よりのみし見せしる今世に
とらるる事とみよし紀貫之此哥より
宣れ哥とみよし伊勢太輔の哥より九重小良暹法師此哥
はなはれと源俊頼の哥山ありし崇徳院此御哥とみよし
みよし前大僧正慈圓の哥よる此の松のたはるる此異る所
みよしれとみよし今世よる事とみよし
みよし御垣守とみよし
火のよる哥と岡部大人はみよし

たのむかこみ哥ども扇ふかき事ありしころも昔も
扇にありしやといひてきまねなるにちうた世におちけなりぬ
とぞさして哥かきたる扇をそのほけねきて見る事ハ東山殿の
ころころやまどまりん押し板乃をうたれたよそのうたこ扇
をうけねおふるあともみ軍鑑よ見えたり

かこころをいふ

うふたかきづといは似るをみくさなりと押しころもいふ
和名抄新撰字鏡ちと小蝦蛙乃たぐひこれかきうひるとい
アと又の名にもかきづといふ事なく又後撰集に田おけり
かこみ鳴くをこころあしむその山田おをいづうちうび

むらうころの音をぞ鳴ゆると見えたる今いふかこみ事かれを
哥ゆもかきづといふべうらづハ万葉集にくどくみえたる哥ども
川よけこもみて秋のをねと聲のかりるまともふひてかこの
さうにけいげをいふれり文字も万葉に河蝦とかりりころふ似
ころかきづといふこれハ河よきむそのあまともとさうせよかよ
はるなり上のきづにいづきかきづころ正しれたらぶわははる
くねしうめハあまきどもかこころうく似これむしとんヨリおきて
くるをかきづといひしもこれうまというらば物語俊陰巻より
乃御りよじよ此御琴の音せのむ春の山よ鶯おけりぬはし秋の
池よ月のうらむぬ夕ふかんゆきぶ云云あり忠が手つううら

蓬の野よりうぐの聲さるるこちかんつうすのむぶと聲のほし
こちよほよひ伊勢物語よほいぢとよかむのりあまの鳴田よほ水
こそちよほれ雨はふくゆどや田よほくものふつるねどはくをづとい
くちよほれちよほなり万葉集の哥よ見よほるかむのやうとい
くちよほなり又中務集よほかむれきくを人のかむをこと詞
かむしよほよほるかむの聲を春たちよほ云とくは哥はくこれハ
まよほくくかむをのむづとくはなうふくくちよほやまうてかく
かむしよほいれはくちよほこのちよほ人ハこれくをかむのと哥はくむ
なほいよほとどまうり。

松虫鈴虫

まのむしナガサハ秋み虫乃ねやる中み聲とぞれつうとこれと
ふくちで哥よをゆきよむされどむしとる哥よも文よもその
聲のやうとかりくくくくといひまのバくれハ松虫あまハ鈴虫とハ
くふ聲はくくくくくく人よもゆきくく名ふようて人まのむし
といひ鈴むし乃つうて鳴むとく事よぞゆりよとくくくく
くくやうなれどもまよとあまこれと思ひよたかきくくくく
哥よよほいようて事よよほいもぞくくくくくくくくくく
おのまき今らぢあつんんんんんんハ松虫らんらつとくくハ
鈴虫らんらつとく今み人ハ松虫とすむしとらハ鈴虫とまのむしと
くくくくくく今やうほぢれ哥よもくくハ松虫らんらんらつと

さういふうらむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも名に
なきてはよきもなむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも前ふ
こされつゝもなむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
これら虫の音のさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
さういふうらむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
聲もすくもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ

男女

男とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
けい今やうの猿樂のさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ

一 事めて日本書紀の皇極天皇卷の男女れとさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
神代紀の少男少女とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
ふ万葉集廿の卷の秋野爾波伊麻己曾由可米母能乃
布能乎等古乎美奈能波奈爾保比見爾とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
のさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
やういふうらむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
とさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ
いふうらむもさるるにきまむとされ鳴つてはすくも今やうの猿樂のさるるにきまむ

しふふりく申もゆつたれどあざれにあらしかつておもしろく來て
らるひのまゝにみづうのうねる世にかりてそのまがくさん
とる人の名といふをあらしとてあざれつゝ事なるとされどその
あざれおやうとらるれよふとて其人の氏を縁のりには
らうてつけらるゝ高野天皇の御心よりれをばして神護景雲二
年みみことのうよ或取真人朝臣立字テオスアサラ以氏作字云云自今
以後宜勿更然とほろこれにむとらにかりのやうよせまほしく
やがしとらるゝあま御國うらふありぬみことけうはれはまを
しとてほまといふにれ人あまひたくとつてげま不氏かぞの
よとらるゝ氏ふとらるゝ菅原れおの君の御字菅三三善清

行の字三耀のほごいぞかぞのふとらるゝ氷宿補繼麻呂れ字宿
榮といひたごひなり此繼麻呂の字は文德實錄八卷に見え
らる高野天皇のみことけうは續日本紀の二十九卷にありとて
のらひかゝるゝまねびす人なりとてたごま名おろふはく
名をあざれとてそのことんあまてほく事とかりと
とれあざれのやうに今の世に名字にあざれとつて縁つて似
らる今昔物語に姓は文忌寸字は上田三郎と云其人の妻は
姓は上毛野公字は大橋乃女と云とらるゝをみまゝにたごれは
氏姓にともぐれど同物語は源宛といふりの字と田源二と
といひ藤原秀郷の字と田原藤太といふとれのらも梶原平

三つて平氏あり氏よりつて字つてなれを氏姓よとてつて
かゝるは後鳥羽院み御代み御代もむとてつてなれをやうにせよ
又名字といふの日本書紀み顯宗天皇の卷一帳内トナリリクサカ日下
部連使主ベノムラビオミ云使主遂改名字曰田疾來イラタシキとてなれつては
正しと名のつてつて中むしりめは字にハサナつて東鑑よ以
景季令問名字給之處佐藤兵衛尉憲清法師也とあり又
同書に名字時連五郎と見えつては或思ふはたかよを八百
とせのむしりつてつて正しとて氏のほろねる氏正しと名み
ほろねる名をむしりつてつてあざれとも名字ともいひ
あざれつてつて事れつて考ふれば中頃よりれ名字と

その人みとみ所の莊名のさによつて氏のやうねるそのとりの
しとてつていひつて多れつては同ド氏のおもひになつてつてつて
しとてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つれむ佐々木四郎高綱とつてつてつてつてつてつてつてつてつて
某名ナニといふつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
正しとてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
氏のほろねる氏とつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
とあざれといふつて今昔物語に字太郎介又ハ京大夫とつて
ハ今世乃あざれとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

何右衛門何左衛門といふ事

今此世の人れあがかに何右衛門と左衛門といふ事のうと考
るにこいみどいめと左衛門右衛門とをのほきこあつてまじり
したと平氏み右衛門とを平右衛門藤原氏み内舎
人といふ左衛門とを藤内左衛門といひてよびつるあて左
衛門右衛門といふ官なれどけけけけ字れやうよひひし
とるがとめそのつらひもごまみくその官なれぬ人あも
つるなり甲陽軍鑑にも男が四十五ありて赤口關左
衛門寺川四郎右衛門とて官途受領とて仕る侍が云云と
つり赤口寺川の今名字といふもみくそれをもつてけの
とる今此世と同どけし官途受領といふをみまば朝廷よ

申てなりつるにそのせむいゆげかまが今此世のなれ
よまごよともむげよつしとものつる民あそ人なれのほき
よはあろつる事なれし

神み宮人と大夫といふ事

神のみや人と大夫といふをむしとつひつる事なり宇津保物
語にう月やうけ日あつひつとつらうふれとれとるよ
て禰空の大夫うんのとけ御とふをそよかりたつと見え住吉
物語ふ此つらいさごふ人やとむとゆせれりまがみんり
大夫どのよとつと見えそ加茂の禰空住吉み神主とみ
る大夫といふ公式令ふ唯於大政官三位以上稱大夫四

不得任用とわれしをいふもむかしはかき笛をうたへたる
のこそせしつゝいふこと

小算策

むらりそむえとて今世小つとむらりはらひとをむらり
小算策といひしふえみぞあらん西宮記十六の巻に吉永清
貞大算策良岑行正小算策と見えしつゝいふは大方とらひ
されとあつとむらり

さみせんれ琴

らみせんれのあつとつものころりあつとつてむらり
中昔よりむらの書みも見えざればむらりせのむらり

おもむき五雜俎といふかきふみり有所謂三弦者常合蕭而
鼓之然多淫哇之詞倡優之所習耳といふはあつとむらり
あつとむらりもみり琴といふはあつとむらり人の心
うらむらりやうむらりもみり音がうらむらりむらり人の心
むらり琴といふはあつとむらり

むらり今様哥

昔はやう哥といふはあつとむらりその時あつとむらり
あつとむらりむらりあつとむらりあつとむらりあつとむらり
あつとむらりあつとむらりあつとむらりあつとむらり
あつとむらりあつとむらりあつとむらりあつとむらり
あつとむらりあつとむらりあつとむらりあつとむらり
あつとむらりあつとむらりあつとむらりあつとむらり

ひりたり紫式部日記に月おびらふさしとてさやうなる君はら
今やう哥うふも云云とてさよめをきくべしとて人い今やうれ
とておめをさしちり狭衣物語に此ちらさうどの口おさようけ
とてあやしの今やう哥どもといとてさうくしとて聲あさうしと
すさうくねしゆとていれはなりくたしとて哥うとてさうど
とてり宇津保物語藏開巻ふうなひども扇をたふさく名とり
川よあつとておめとのさういあつとてい住吉物語に舟はり
とてそのさよめあやしとて聲くしとてさうくさうめさうれ姫
松とてさうくといとてさうおども今やう哥あさうめをさうどの
うげもさうめさうべとのうみねよぬしとたあつはさうくさうらさ

なりはさうめさう今やうとてさうくさうのむ世のなすいよさうらさうい
白拍子といよめのでおさうとて今様哥をさういさういあつた
つげとてさうめさうおめさうやうよ七五の句八句とてさうのうげをら
さうめとてさうつのおうとてさういさうくさういさうくさういさうま
さうとて承久のころさうりおらさうを承安四年今様合のほう
つる事百練抄に見えさうれはさうのころさういさうりにつらういさうさう
これもさうれ同ト時代の事さうく平家物語に佛祇王さうさう
つる今様哥の詞をさうくさうくさうれを八句さうきさありさうれ
さうとてさうやうもさうめさうりさうん佛がはさうりさうくさうも君を
さうめとて見るとさうれは千世もさうのべ姫小松おさうの池乃かえ

岡よほるこもむれかをあそぶれ祇王がれはうすれり古今著
聞集に見えりいもせれうらねるあうぶくこうつらみるこを
あれかまこねうがれいこ見一人もかくしつこをれり
今つらんこねうらねる

かろくにんねるこどれ讀やう

哥み題るど三りし四りどにりもるを今世の訓音もどつ
古砌薄露草葉玉とやうよむ事なれどむりハかうさるに
りねるこどハ訓よむむりハみねる訓音よむむりこ
しうとみりり北山抄一巻釋奠此条小都講先音讀發題
次座主訓讀と見え又宇津保物語藏開卷にむくびる

いしあふよとせねりてねりりしとさうりねるをぞん
せをねりやとゆハ俊蔭の集とれ父式部大輔の集とかうど
なる事めくかく集ねるをさむりこふよありまてそどれぞ
もくねれと訓音もどてむいりこくはし哥み題りそどハ
なぶらうあうらんをさうしかぶさまれりさハみねるれり
まどねらんこみねる音いあそ

天狗

てんくといふをねりかうみは天狗星ともあつてむびりしを
いりむやうねるふちめく樹神みくひとらきむりし
これ人のあやむ事よてらね世小物茂卿が天狗説とてか

なごするともあるハ樹神山鬼天狐やうのそれよくあるに天
狗とよりのところなる事おしるぬどの國万能池にも龍乃
堤のほろり小蛇の形とひりてわきと天狗おくりくること今
昔物語小見えも食人家小兒とて五雜俎の説とひり
て和名抄ハ樹神山鬼とあるまといひ此れをれたらひを
てんくもてんくといひやうおそのひれをりのがうらみよを
てんくもてんくといひと天狗の中ひりけらみよ見え
やう宇津保物語も俊蔭巻にもなる形よよれうとの
音あつてあそびわくうんてんくのすうふそあつてい
榮花物語ハ布引瀧巻ハ白川殿とて宇治殿のとて

領せきおたつてい所ハ故女院もおりしあつ天狗あつて
いしとてつと御堂たててせしと云供僧ふやんことかつれ
とてうかうなどありてくやうやう地をひつとめたり天狗えはく
らせたりとてつとつとていしとてわくてくやもすだぬ
めりといひ大鏡ハ一巻おつて山の天狗けしとてまつとて
とてつとてさちえとてつとめれといひとてつとて見とて樹神
山鬼天狐やうれものなる事といひ思ひさつていしとてかつに
みやあつてうらとていひも今とあつて山とて山ひえれ山
なごふあつてうらとていひとてかつて見えぬあつてうらとてい
つとていし變化をれとていしとていしとていしとていしとて今

世ふあまよく山伏のかしらあて翼と背とけりよみく山に
住て人の如くその山伏のくちりく大つととびゆけむ翼
ありとつとてあまのハ背ありけりしをりにはさぶめてあーの
うれとあてくつたてくちりく小あぶにくと又さるすごこを山
あてまててに見さといふ人もあてあまよくを見むかえさ
人のあてくみすこなうんと思ひさるころのうらとあてさるにや
らもくちりくさあう乃すかこころうりし見さるむかへてあて
及さむいしとてけりし心けりしけりしとぞおのれハさやうさうか
思ひさるてあうつていしとてあてくちりく天狗よけとれここれすこ
山よあてくちりく来つて人よあてくちりく天狗のやうとといひくさふ

つとくちりくハ天狗のかしらハつらくして天狐もけりしそれの高死人も
けり又ハ翼背つとくちりくかてりけりつとてあてくちりくさるはまけ高
さハ人乃あまよくけり翼背あてハ驚きあまのなれりけりとかこ
あてまててあやけりんこさあうなむさあまよくちりく天狗も
おのづからけりしとてあてくちりく

すくね軍しとて多さいらさるとたう事

さくねよいくちりくてあてくちりくたうんあまたてくちりくかこ
たのく道よ大あて川なれり橋あてくちりくさるさくちりくて橋を
さうたててたうよと事ぞ吉川元春の羽柴氏といふまこれ
國あてたうんこさてくちりくのかてくちりく道み橋とさうりけ

まゝも柴田勝家がつかりみちちなる水にれたるかえをくらげ
おといでたういゝもこれつきてうぬ心城人よ見をばりま
あくそれと同トちるおろしうすれが孫子とよかろふみよ
投之に地然後存_ス陷之死地然後生_スとつるおろしむとみ
うかい韓信が背水陣れ心をくかりをれつとみきみいふが
いらこれつてをこれふとれよえさうぬたういほまばう
ばさやうあどーらるあつちあるハかたれのおやふとおそれ
こがつほう乃まてあゝ川橋とさうならそとさうあつちせ
とぞすれとあつちハ天武天皇れ御代のころあふ大友
皇子瀬田の橋れ西小つほうとつまいてつと人よ智尊とい

つと川橋とさうならそ東より来るみいれとをふをだつとつ
し小大分君稚臣といふ人川とさう来るのち西なるつと
みづれと智尊ハとれ皇子ハらびまうせとまひぬ治承四
年にも高倉宮平等院のつとせたりといへくを頼政れ三位の
ころといみく宇治橋とさうならしに足利忠綱とれりなら
とあまもつとつとこの川をわうとつと宮がこのつとみづれ
て頼政卿ハとつとさうてうせたりといつ元暦元年あつ木曾
義仲の家人根井行親権親忠とつとれ宇治橋とさうならて
せめらるかたれとあせざし小佐木高綱人よりさたり川を
らうとつと木曾の軍をいれとつとれとつとをれといとつとて

本紀私記 軍營也といふ今世の菴廬の事ともいひしと云伊保利

とむらひかきし和名抄に此ふささづの和名伊保とありし
いりしとふかき日本書紀宣化天皇の巻には遷都于檜隈廬
入野と見え萬葉集十卷の哥乃客乃廬入爾といふ
といはるといふふみれ入といふとてささづかきもめく廬と
いふもといはるふあつささささささささささささささ
とむらひかきささささささささささささささささささ
といひたりといふささささささささささささささささ
言といはるささささささささささささささささささ
らさささ人のすみささささささささささささささささ

萬葉集の哥に廬
入而見者といふ
又ひさつの體

了軍營もささささ小屋なれといはるささささささ
み哥り秋田^{アキタ}荻客^{カシノキヤク}乃廬^{ノイホ}入爾^{ニシ}四具^{シツ}禮^{レイ}零^{レイ}我^ワ袖^{スエ}沾^{シメ}干^ヒ人^{ヒト}無^{ナシ}二
ともめささささささささささささささささささ
入爲^レ而^テもといはるさささ秋田^{アキタ}ふわりとめつさささ小屋なれを
いひるもめくさささささささささささささささささ
いひるといふ軍營はささささささささささささささ
言ゆゑに和名抄はささささささささささささささ
み哥あささといはるさささささささささささささ
冊子も廬山雨夜草菴中といふさささ草みいほるとこれ
うささ福んといひるさささささささささささささ

むさしでいふはあしこめうさだにさるさるのやうなれどこれハ
獅子狛犬といふつれづれのらにやうなはくれる形もむしれ
よはなごう獅子形とすう犬もいふよて獅子と狛犬といふ
つゝあはれぬそのいふつづいよをもまらそまらし高尚つ
考ふに獅子狛犬いふことうさふあつるものいふはれはさ
かよいよくとり奈良のみやとらつらでれ書よ見えざる
形う今の京れもあつるやううんひの國とつづいふ
大宮のちらよすえなまよとつゝはりあう遊仙窟といふ
の牀頭玉獅子は注ふ以玉刻爲獅子安牀頭避鬼魅竝得
鎮押氈席といふを此ものゆゑとかりるかゝつたよてう

獅子形と申すのいふやうにもあつるよとの獅子形と高麗より
なすつらう大宮れうらふすえとよもめ女房とらハ獅子といふ
あつとあつて高麗とつづいふつらう犬も似えれがあつたの犬なり
とあひあやまうさやういふいふとつづいふと其中もあつら
えつゝあつていふつづいふとつづいふとつづいふとつづいふと
あつたつていふつづいふとつづいふとつづいふとつづいふと
ハ女つづいふとつづいふとつづいふとつづいふとつづいふと
あつたつていふ人のいふまにたれがあつたつていふとつづいふと
もつづいふとつづいふと記録の書よハ獅子といふつづいふと
ハいふに家次第十四巻踐祚上讓位の條より次被渡殿上

新物等藏人加監臨令立 於殿上口出 納受取之 日記御厨子二脚大

牀子三脚同御厨子二脚師子形二云云十七卷立后み

條に大牀子二脚師子形二御插鞋一足云云御插鞋 鏡置

臺 師子形 立御帳南 大牀子二脚立帳東頭とつるを見て内

裏より御帳れまよす急なるいふ所なり獅子なる事

とありいづむべし清少納言枕冊子に宮もど先のさほりま

ちりぬ大牀子おどるまわり御帳のまよまつひす急

とつる定子れ君の皇后宮ふりせしをよみこし榮花

物語 つや藤 此ふいふいづつを御つひ大牀子にて御帳

みまのこりぬおどるひ乃事なごしとまよりるまよとつる

ふづつがれ君乃后ふせなまよりのこなりぬ御帳れ

まよまつるいぬす急れつる江家次第れ立后乃條小

師子形を御帳の南面左右みまよとつるふ同づれを見て師

子形をまよいぬといひなまよとあれがれとつるいひが

つなつぬとまよべし又榮花物語に つや藤 御帳れまよに

いとおのりそむいさむいし つや藤 いぬみ人まよ

つるわづらそむいさむいし つや藤 いぬみ人まよ

みるまよふおあまほろしれ世の中い志のこまよとつる

かりぬ 君 まよとつるいさむいさむいし つや藤 いぬみ人まよ

まよとつるいさむいさむいし つや藤 いぬみ人まよ

山城國相樂郡大狛下狛 之毛都 古末 とあるせるかども高麗を狛

ともむしりてうむつるこみあつてし

祇園祭の山鉾

京れどとんまつり山鉾とていつくのほろつとみむしりてこと
ゆり中原康富記し嘉吉三年六月七日祇園祭礼也神
幸并鉾山己下風流如例渡四條大路者也とありて應仁
のみみれとてされつるに大なる今のほろつとみむしりて
らまぬ山ハ大嘗會の月日れ山をまひびつるものとぞおぼりて
鉾ハ神とまらつていつめつてはれつるゆりのなつと山よふ
かごころれもつらつてはれつるものとぞおぼりていつなりとて

續日本後紀に 二の卷 天長十年 十月廿二日 御豐樂院終日宴樂悠紀主基共

立標其標悠紀則山上栽梧桐而鳳集其上從其樹中起
五雲雲上懸悠紀近江四字其上有日像其山上有半月
像其山前有天老及麟像其後有連理吳竹といふこれより
主基も山あれど同ドやうの事なれどもいつてその山
むしりてひきゆふりなり榮花物語 なつかしき物語 大志
急まひの月日れ山とてあやしみのつて青ずりにあつてもか
らうしつてだあゆみはつまねぐりてをみちをほろつた
らそゆもつとあると見てあつて

京のまられながら大路小路といひ分なる事

一條より九條までのまられさういのみらとを大路といひつたり
江家次第第五の卷春日祭使途中次第みとら小梨子原在
二條大路南といひ又如一條大路儀といつてを見てあま
その條みらちのみら又北とを南へゆくみらとを小路といひ
事ゆく同卷列見のころふ宮北路春日小路也といひ同
書六の卷石清水臨時祭のころに舞人於匣小路西騎
馬とあり今も富小路錦小路といふ名のころありつみ
れしとていひんさそ又いんがし西北みるころまられ名とあり
せしといひと同書五に卷小於七條大宮官人行除目又於
七條堀川有除目事とて見え大鏡八の卷み物見車とて

二條大宮のつどにむらさきまうて見るといひつとてその大路小路
路のむらさきむらさきといひつとて大路のむらさきと十丈小路の
むらさき四丈かきつとて延喜式四十二の卷左京職に京程の
ころ小見えつとて

堀川東西にありし事

今ハ堀川といふをむらさきむらさきかきとむらさきハ東西にあり
と見えつと三代實録十三卷に天下大旱民多飢餓東堀河
多鮎魚京師人捕噉之とあり東西ともふみさかれうらふかき
とあり東堀河のむらさきとていひつとてされよ文徳天皇に天安
一年にさみぶれいづふらつとて東堀川に水冷然院ありつとて

庭におも池のどくくなりきといひしうも西なるはいつふもいそ
くはひきくうなるあられみくつふもたけぬ小川ゆきふこそさ
かたもやううづそれてはえにらん今堀川とてゆゑハ東堀川を
ぶしふさふれまらむししう東へまねばとてらもさやうならん
とおもひきなりうね天安二年のころハ文徳天皇實錄十卷に見
えり

葛野河

かつ川をむくはふの河といひらん西宮記十三卷庶宮禊ノ
ころハ先向東河解除云云以月梅朱雀門大祓當日西
河禊と見えり國史みし齋宮齋院みそび鴨川葛野

河みくつうつ例なりらん東川ハかも西河ハかぶのころれら
ら川をれら西河なれば同ド川なるころもあられら三代實錄
五十卷仁和三年八月のころハ小鴨水葛野河洪波汎溢ハ
馬不通と見えりもかも川ハの河といんがし西の大川とい
てりころなればかぶの川ハ今のかつ川なるころつらら
あり源氏物語賢木卷ハ齋宮ハ御禊はつ川とてしころハ
事わりころころやかつ川ハなほいもあらん葛野郡ハ
つと云ころハあられら川なればたづらつてり
もあられらし

大堰

とつぎく此集をうらゝく人けりむらりと云哥の詞ふやひ
なづとも又のこゝかゝり年八日の何やまうなるとさうし
こよわたゆゑあたるをみかゝるべし仁和のみどれ芥川行幸ハ
三代實録に見えらく仁和二年十二月十四日なり行平朝臣の
致仕表をまうられたるは同三年正月十四日から同書
に見えらくされハ又乃こゝかゝりどやもむむとあそど
ゆゑなり。

玉出嶋 ころけ浦

紀のころけ玉津嶋ハ玉出嶋なるをむらゝくさうらとさうらとさうら
たうらひもゝかゝるをさうらゝくり續日本紀に玉津嶋と見

え宇津保物語ふたうらゝくもたうらゝくさうらとさうらとさうらとさうらと
一玉津嶋ハ玉の嶋とさう意なり又さうらとさうらとさうらとさうらと
ありその例とさうらゝく日本後紀ハ幸紀伊國玉出嶋三代實
録四十の巻ハ紀伊國正六位上玉出嶋神竝從五位下な
ど見えたり又宇津保物語吹上ハ巻ハたうらゝくさうらとさうらと
てさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと云あゝど此君 年とさ
て浪たをたてふたうらゝくのさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと
たうらとさうらとさうらとさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと
とあり

ころけ浦ハころけハ弱濱とさうらゝくさうらとさうらとさうらとさうらと
續日本紀ハ神

所念オホホトともみくるとやりのばもほもあがらみくハ何れども
その足柄すねがらけららにこそ小足柄といひ山ありて管根とあるふ
つりそハ日本後紀延暦二十一年のころ小廢相摸國足
柄路開管荷途以富士焼碎石塞道也と見え同二十二年
のころ小廢相摸國管荷路復足柄舊路とみえころそ
もあられら管荷路といひ足柄路と同ドクみれららけく
とも東より道かれハ今の管根路なりべしつみハいそ
程もともみくるといひころらん詞志ころくかころ此路延
暦れころむりてころけらららてなころもあられ廢管
荷路といあれどもちねなるべしやりに人のゆきうねわくふ

まてらかりとてこの路とよごええられむづのそみや沖の小嶋よ
らそれとも見也と鎌倉みおころのともみたりれどもまも大路
なるらう又阿佛れつとといの記小二十八日伊豆のちふとつて
とていぢれわと云云あしか山ハみち遠とそともほぢら
かころらりらとわつと見えむ足柄路ハとわてなころけし
くれハともこの路よかれとめとつれハゆとこのとけくならそ
つひよみらなるねとてら見えころされど真須鏡七の巻に
つゝぬの判官といふものされみ將軍ががりなるいみらも
まがころれむあともころとてあり柄山をとわてのぢら
なごぞちつとわら事やちとまバ正應れころまごもね

人跡和乎召良米夜笛吹跡和乎召良米夜琴引跡和乎
召良米夜とつり笛吹琴引にへいこむるも哥をよみ人
とつるこころはげしくか歌人となさたふ人をよめる例不
か小拾遺集にたひらけ例ふらうそ哥をよむ人とさひいひが
かぶしうこみとのこいんげまげくはしくは例もたはく
てとらへかぶる

古哥みよむことごとくふやう

いふへは哥のふたれあうらとやうなることいひかへたつてふ
こゝ今れ世よゆうとある古哥集物語ふみけらこもくも可
みあうらとやういふやうなる事やういふおかし人のかたらかさうい

なうりは哥ハおやゝ ねえこゝいあし又こゝもりた哥たうや
ねえりももあうらとやういふこゝ見まばとさういふおや
ひげよえ見まぬもさあもすれうげ哥ハ文ハいひこゝ
れこゝ詞のまゝにこゝらえてはたぶらあてされよひこゝもどあふ
詞をあまこゝそくざれをこゝまげた又うたれ情とつるよめたれ
むせははひのあてはうふたげいこゝらうあうらなる事いふ
さういふれこゝはうらこゝらうぶおびこゝのこゝたやうなり
あうらいんあてこゝまげこゝこゝもさうたれをさういふ
ハおのがあうらなる哥書の注釋をこれうまこゝみまばくはこゝあ
らう事なれむらうあうらなるこゝらういふおびこゝ

おんまかりん

哥詞とてふふくひいひがみわらふ事

あふらふこみれそのくを見ふふさうくもたれををらふまれ
はらふのやうふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく
かり今やいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひ
深山いこゆと糸遊かたれうとうれ家屋とと宿さるりと名
残ふと何國ともは外面ゆづを東はれづとと七夕み
びを御被やるとりげとこと大和さるるとさるると早苗のみ
しむと紅葉くびてと楓さるると雉子たけを田鶴とかく
形どなりとわらみれまらしとみまらとととととととととととと

いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
らんまらんあしかはなひ此りうもとあまこゆととととととと
づふとととととととととととととととととととととととと

色紙形

今此世にまるとととととととととととととととととととととととと
とわいらひとととととととととととととととととととととととと
紙形とつとととととととととととととととととととととととと
風色紙形華山法皇主人相府右大将右衛門督宰相中
將源宰相和歌書色紙形皆書名後代已失面目但法皇
御製不知讀人左府歌書左大臣件事奇怪事也とととと

これハ長徳五年けこみて八百年あまねるむしりなるといふ
まふしこのやう大い今みこくなりんと判るる又明
月記に文曆二年云五月乙未朝空晴云予不知書
文字事嵯峨中院障子色紙形故予可書由彼入道懇切
慇懃筆送之古來歌自天智天皇以來至家隆雅經卿入
夜金吾示送と見えたるあの色紙形ハれもみてあはれぶぐ
今のこゝろの事なりしや一あれしといつるハひくらさ紙の
名あり和名抄の紙有色紙檀紙云等名とつり又延喜
式一ハ卷散祭料の所ハ白紙廿張色紙四十張と見えたる
まふしといつるれ色の紙といつるなりそのつりハ中ハ白と

もつり宇津保物語國讓卷少くもばかたる色紙よりれた山
吹につけたるハまんのそ春は詩青とあひりけりて松ふけつハ
さうして夏の詩といひ源氏物語橋姫卷ハ白とまふしれあつ
るまふしハふでハむぶつらひえうてすみつゝ見どつらつてりれ
まふしといつるハむを見りしれ色の紙のほすとあふしその
まふしハのやうむくゆとさかたうにらひさうはくまの紙
もあふしがとまふしハなんあまの形といつたとむ人乃
やうあつらひさうつらつと人形といつたむ

短籍

八んさの事玉うつりの十四の巻よつと見えたりとよハ

時既小短冊よ歌くくことほつーなりとつる伊勢氏の説ハハ
 ーといひがやとびり何の御せんまやくはくとハささび言ふ何乃
 御うたつけあくと云意やうとハ哥と紙のうーありれてはるもの
 こみせせなられどもかこの人み哥とをいひげしとたさ
 きよ家おやけさうとていひげうてなまふもといハ何ふま
 れとみえさひよよしおたつけしとてのやうにいひさうはるなれ
 を何の御うたつけあつ侍らんものうさうむらうなまふとーかさて
 やさふとつてさあつたれが人よさうするものいひげしと
 うまふーはるのと短冊のいー例とふまぶく哥うたつる例
 とハまぶくー哥といふまぶくつてしとてのこれ詞なまふとや法鎮

大僧正の拾玉集七の巻小短冊とかなんうたてく立春の哥と志
 るせつこの哥ハ短冊ふうたつるといふことやあふんちれとと
 りとすづしたるー拾玉集とてわらうハとれ世の書どもいと
 らふみえざれむづしとて事あなむくそのやしはとめ
 らげ頓阿法師みあつあどとらう短冊に哥うささうたる
 その短冊れつとそつたると見えはながと一尺を一寸五歩
 かり今のとみまうとてハらひらし哥おれとてめしとらハれ
 ともつてーらひらるるんとやうく大さふハなれとあぶー

